

学校だより



学校教育目標

児童数



心豊かな子

750名(2月28日現在)



明るい子 考える子 たくまい子



物語文を通して自分向き合う

校長 長谷川陽子

1月31日、南陵中学校区授業研究会を本校で行いました。この研究会は南陵中学校、北秋津小学校が1年に1回、順番に公開授業を行い、教師が学び合うものです。子どもたちは、参観の先生の多さに、少し緊張していたものの、みんなはりきって授業に臨みました。6年生は、立松和平作「海の命」授業を公開しました。「海の命」は、青年太一の心の葛藤や海の豊かさを描いた物語です。太一が「与吉じいさ(祖父)」や「おとう(父)」「母」からどんな影響を受けたのか、それぞれの人物の考え方や生き方を通して、自分に訴えかけてくるものは何かを考えました。子ども同士のやり取り、それを導く教師の言葉、クラスが一体となって考えを深める様子に、参観者も引き込まれたようでした。授業の終わりのあいさつの後、自分の考えを夢中でノートに書き続ける子どもが何人もいたほどでした。

本校では、今年度、3年目となる“レジリエンスの育成”を、物語文を通して進めています。朝の会で、少人数の話し合いを繰り返し行い、話し合いの方法を学んだ学年もありました。普段の授業でも、子どもの発表に対し、「なぜそう思ったのか。」「本当にそうなのかな。」と教師が問うことで、子どもが深く考える機会を意図的に作りました。

子どものノートには、自分の考える過程が見え、しだいに根拠を持って自分の考えを表現できるようになってきました。発達段階によって違いがあるものの、こうした学びを継続的に行えば、思考力が高められるかもしれない、子どもたちの姿から少しずつではありますがその変化を感じることができた1年でした。ご家庭でもお子さんに授業のことや少人数の話し合い活動などについて聞いてみてください。

この研究は、1年間通し、淑徳大学特任教授 山本直子様にご指導いただきました。



1年生 すうっと
すっと、大すきだよ



3年生 モチモチの木



6年生 海の命



6組 音読発表



南陵中学校区
教員の研究協議の様子

手づくりおひなさま ありがとうございました

久米郷土を知る会の方々から、今年も1年生と特別支援学級全員に千代紙で手作りしたお内裏様とお雛様をいただきました。子どもたちは、自分で作った台や台紙に載せ、かわいい雛飾りを作りました。

